

第6回 我が国物流システムの国際標準化等の推進に関する連絡検討会 議事録

1. 日時

平成31年1月24日（木）10:00～12:00

2. 場所

国土交通省国際会議室（中央合同庁舎3号館8階）

3. 議事概要

1. 国土交通省より、ASEAN 地域及び台湾におけるコールドチェーン物流の国際標準化とその普及に向けた取組について発表を行った。
2. ヤマトホールディングス(株)より、保冷宅配便サービスに関する規格 BS PAS1018（以下「PAS1018」という。）に関する取組について、前回からの進捗状況を踏まえた発表を行った。
3. 日本郵便(株)より、PAS1018に関する今後の取組の方向性について発表を行った。
4. 経済産業省より、小口保冷輸送に係る ISO 規格策定の国際会議における議論の進捗について発表を行った。
5. (一財)日本海事協会より、PAS1018 及び ISO 認証取得の基本手順及び想定される PAS1018 から ISO 認証への切替え手順について発表を行った。
6. 農林水産省より、日本発の食品安全管理規格・認証スキーム（JFS）の推進に関する取組について発表を行った。
7. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

【松本物流審議官より冒頭挨拶】

小口の保冷輸送のサービスについては、本検討会での議論も経て、2017年2月に英国規格協会より世界初の小口保冷輸送サービスの規格である PAS1018 が発行された。また、国際標準化機構（ISO）において、PAS1018 の内容をもとにした ISO 規格の 2020 年の策定に向け、議論が順調に進められているところ。

さらに、日本企業の進出の活発な ASEAN においては、「日 ASEAN コールドチェーンプロジェクト」における取組として、BtoB の保冷輸送サービスを対象とする「日 ASEAN コールドチェーン物流ガイドライン」が、昨年 11 月の日 ASEAN 交通大臣会合にて正式に承認されている。本日の検討会では、オールジャパンでの規格化・国際標準化の取組を今後より効果的に進めていくため、それぞれの

視点からの御意見、アドバイス等、積極的なご発言をお願いしたい。

【保冷宅配便サービスに基づく PAS1018 に関する取組進捗】

- セミナー等の機会を利用した PAS1018 の認知度向上を通じ、オールジャパンでの普及活動をしていくことは重要。認証機関としても、アジアでのセミナー開催等では、積極的に協力していきたい。

- PAS1018 から ISO 認証への切替え手順としては、現行の ISO 規格のドラフトを踏まえると、要求事項の差分を文書で確認し、追加の現地審査は行わず、移行費用は実質事務手数料相当のみになると想定している。

【日本発の食品安全管理規格・認証スキーム（JFS）の推進について】

- 輸送・保管を対象とした JFS-C 規格について、輸送・保管関係団体へ説明したとあるが、どのような団体に対して説明され、また、どのような意見が挙げられたのかをお聞かせ願いたい。

- 国土交通省へも相談し、陸上・海上・航空輸送関係の事業者団体や倉庫事業者団体に対して説明を行った。JFS-C 規格はマネジメント規格であり、抽象的な表現が多いことから、具体的に何を行えばよいか分かるようにガイドラインを示してほしいという意見が多かった。当方より、今回作成している JFS-C は、国際標準にも沿ったレベルの高い規格であり、国内のみを対象にした事業については、今後食品安全マネジメント協会（JFSM）が策定を検討している JFS-A/B の方が普及していくであろうと申し上げたところ、A/B の策定に際しては、意見をよく聴取してほしいとの声が挙げられた。規格を利用する実際のユーザーの意見は非常に重要と理解している。

- 是非、業界団体にヒアリングされた結果を踏まえた規格を策定してほしい。

- 前回の検討会において、JAS 規格について説明をしたが、その後特段大きな進捗はない。

- JFS-C 規格の中身について、「②HACCP（ハザードシステム）」との記載があるが、これは企業がハザード特定を行ってマネジメントシステムに取り込まなければならないという理解でよいか。

- HACCAP は食品の衛生管理のツールであるが、実際にハザード分析して、

HACCP プランを作成してもらうこととなる。きちんと機能しているかどうかは、PDCA サイクルを回していくとともに、それをチェックする組織の体制を作っていくことで確実にすること等が内容として盛り込まれている。

- ハザード特定（管理）は企業にとって非常に重い作業であり、金銭的にも負担がかかると理解している。企業の重荷にならないような仕組みにしていただくのがよろしいかと思う。
- JFS 規格は、日本全体の競争力アップと日本発の国際標準の国際的な普及、海外展開を有利に進めることを目的とした民間規格である。頂いたご意見は規格を策定している JFSM にも伝えたい。また、ある程度見直しの素案ができあがったところで、国土交通省へも相談の上、業界団体から改めてご意見を賜り、よりよい規格にしていきたい。

【その他】

- PAS1018 のプロモーションの話があったが、ASEAN 等に経験をもっている我々としては協力のポイントとなると思う。一つご参考まで紹介したいが、健康経営に関する PAS3002 という規格をスリランカで根付かせ、早く普及させるため、企業が主導してアワードを立ち上げた例がある。物流に関する規格においても参考になるのではないかと思う。
- 今年 ASEAN の議長国がシンガポールからタイに移るが、キャッチフレーズが「No one left behind」という SDGs（持続可能な開発目標）につながるものとなっている。この点も踏まえ、現地事務所を主体として、日本の技術やサービスをショーケースするような機会を作っていきたい。現地により響かせるためには、高品質を売りにするだけでなく、庶民にとっても、生活の質向上というメリットがあると伝えていくことが重要になるのではないか。
- アワードという観点は非常に面白い。本検討会では、物流産業において標準化の機運を高めていこうということと、できた規格を普及させ日本企業の海外展開を後押しするという二つの目的があると思う。後者については、幅広いステークホルダーへ伝えていくためにも、ASEAN 各国の現地生活を考慮した訴求は重要であり、今後日本発の規格等の取組みを効果的に紹介できる機会があれば是非情報提供や意見交換をさせていただきたい。

以上
(文責 事務局)